

共に創り、共に歩む――

Leap to the Future



あした 未来を創造する、医療の現場から

Leap to the Future

あした 医療機関が地域の「未来」をまもるため

私たちはカイゼンを超えた

「Leap (= 飛躍)」を支援します。

経営にかかわる膨大なデータを徹底的に分析し(実証性)、
医療政策の先をよみ(先見性)、
現場の医療スタッフと共に汗を流し(専門性)、
医療現場から病院を、地域を、そして日本を変えていくお手伝いをします。



私たちは、ベンチマークを起点とした「実証分析」で課題の本質を見つけ可視化します。
病院はベンチマークによる自院の「立ち位置」から、あるべき姿へとカイゼンを進めることができます。



「変化はコントロールできない。できることは、その先頭に立つことだけである」
(経営学の父 ドラッカー)
私たちは、患者、病院、地域、国と共に求められる医療と向き合うことで、未知の困難を切り拓きます。

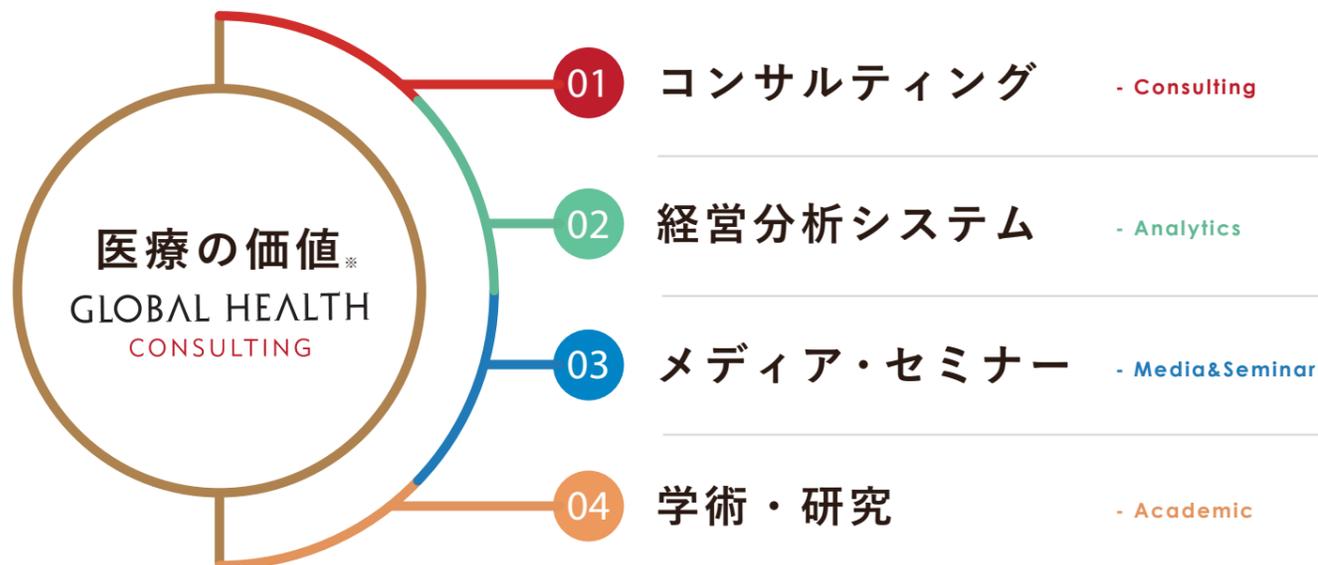


私たちは、医師、看護師、薬剤師などで構成される医療の現場を知るコンサルタントとして、医療現場の当事者意識でカイゼンと向き合う「実行支援型のサービス」を提供します。





急性期病院の 「医療の価値[※]」を向上させる 4つの事業



※医療の価値 = $\frac{\text{医療の質 (Quality) \uparrow}}{\text{医療のコスト (Cost) \downarrow}}$

医療の現場を熟知したコンサルタントによる
医療ビッグデータを駆使した実行支援型のコンサルティング

コンサルティングノウハウを凝縮させた経営分析システム

政策と病院経営に特化したメディア・セミナー

国内外の最新情報に基づく学術研究

大学病院から民間病院まで
多様なクライアントを支援

主に地域の基幹病院を
サポートしています

Leap (飛躍) する実行支援型
コンサルティング

基幹病院の支援を
経営分析システムでも

精度の高い分析を実現する
膨大なベンチマーク数

病院経営のプロが
認めるメディア

クライアント数

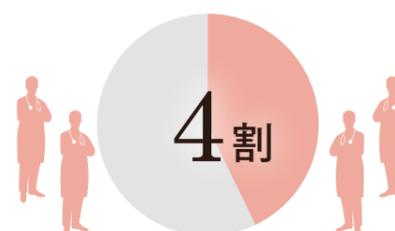
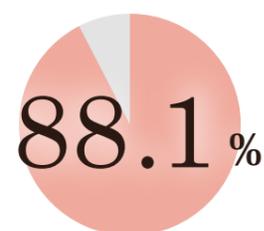
200床以上の
クライアント数の割合

年間最大増収金額

「病院ダッシュボード^(カイ)」
高度急性期病院の導入率

ベンチマーク対象病院数

「Gem Med」の閲覧数



※創業時からの累積数 (2022年1月時点)

※2022年1月時点

※2006年度の旭川赤十字病院での実績

※高度急性期病院はDPC特定病院群のことを指す

※2022年1月時点

※ピーク時月間実績



進化し続けるベンチマーク分析

<https://www.ghc-j.com/science/>



GHCは、米国流の病院経営改善の実践的な手法である「ベンチマーク」を日本に初めて導入しました。めまぐるしく変わる医療環境の未来をみすえ、病院の経営に資する革新的なサービスの開発と提供に努め進化し続けます。コンサルティングサービスでは、経営課題に応じた最適なサービスを提供します。

課題 地域医療構想下のビジョン・戦略の策定

サービスメニュー

- ✓ 病床機能戦略（病床機能分化）
- ✓ 病院統合再編
- ✓ 病院の働き方改革
- ✓ 「公立病院経営強化プラン」策定支援

01

課題 急性期機能向上

サービスメニュー

- ✓ DPC 特定病院群（基礎係数対策）
- ✓ 医療・看護必要度の重症度割合適正化

02

課題 増収対策

サービスメニュー

- ✓ 戦略的集患（DPC 病院の地域連携）
- ✓ チーム医療向上（加算対策）
- ✓ 手術室効率化

03

課題 患者フロー最適化による医療の質向上と業務効率化

サービスメニュー

- ✓ クリニカルパス作成・見直し
- ✓ PFM（入院サポートセンター開設・支援等）
- ✓ 適正な病床機能の運営（ベッドコントロール）

04

課題 コスト削減

サービスメニュー

- ✓ 医療材料コスト削減
- ✓ 委託コスト削減

CASE STUDY

- ・名古屋第二赤十字病院
- ・諏訪中央病院
- ・津島市民病院など

05

課題 人材の育成・組織強化

サービスメニュー

- ✓ 病院のマネジメント人材の育成支援（経営分析トレーニング）
- ✓ 病院経営の戦略組織構築（経営戦略室の立ち上げ）

06

社会福祉法人 恩賜財団 済生会 滋賀県病院

滋賀県栗東市
病床数 393 床
契約開始年 2017 年

滋賀県済生会医療福祉センター総長 済生会滋賀県病院 院長 三木恒治 先生

ご活用サービス 病院統合再編等

ポイント & 効果

- ・再建断念された赤字の公立病院との再編統合に成功 3 か月で単月黒字化を実現
- ・再編統合と地域連携の推進で重症患者割合向上 後方支援病院への転院数倍増
- ・入退院支援センター機能を強化、複数の関連加算で年換算 850 万円の収益増を達成

鳥取大学医学部 附属病院

鳥取県米子市
病床数 697 床
契約開始年 2018 年

鳥取大学医学部附属病院 院長 原田省 先生

ご活用サービス 組織強化 PFM（入院サポートセンター開設・支援等）等

ポイント & 効果

- ・縦割り構造を打破し、業務の見える化を通して課題発見と改善活動を推進
- ・チーム医療の強化により、入院医療の外来化を促し 業務効率と収益が向上
- ・大小さまざまな案件でアクションできる組織へ変容

社会医療法人財団 慈泉会 相澤病院

長野県松本市
病床数 460 床
契約開始年 2003 年

相澤病院 最高経営責任者 相澤孝夫 先生

ご活用サービス 医療・看護必要度の重症度割合最適化 クリニカルパス作成・見直し等

ポイント & 効果

- ・看護必要度評価を段階的に確認できる仕組みを構築し、看護必要度の精度が格段に向上
- ・看護必要度データとDPCデータとの一致率が短期間で大幅改善
- ・定期的に看護必要度を見る化しチェックすることで看護必要度の精度を維持

小牧市民病院

愛知県小牧市
病床数 520 床
契約開始年 2007 年

小牧市病院 事業管理者 末永裕之 先生

ご活用サービス PFM（入院サポートセンター開設・支援等） クリニカルパス作成・見直し等

ポイント & 効果

- ・年間約 4 億円の改善効果を達成
- ・1 年間で入院期間 II 超の患者が 5% 減少
- ・急性期機能を充実させ、1 日単価 7000 円向上

社会福祉法人 恩賜財団 福岡県済生会 福岡総合病院

福岡県福岡市
病床数 380 床
契約開始年 2008 年

福岡県済生会 福岡総合病院 総長・名誉院長 阿留健一郎 先生

ご活用サービス 戦略的集患 手術室効率化等

ポイント & 効果

- ・データ分析で手術室の稼働率 80%
- ・地域連携の強化で紹介率 81.5%
- ・救命救急隊と関係再構築、対応病床 62 床

日本赤十字社 姫路赤十字病院

兵庫県姫路市
病床数 560 床
契約開始年 2006 年

姫路赤十字病院 院長 佐藤四三 先生

ご活用サービス PFM（入院サポートセンター開設・支援等） DPC 特定病院群（基礎係数対策）等

ポイント & 効果

- ・DPC 特定病院群昇格・維持
- ・入退院支援センター設立
- ・外来単価がトップクラス

※【ご活用サービス】には、PS にあります当社のコンサルティングサービスのなかでご利用された「サービスメニュー名」が記載してあります。 ※各病院がご利用されたコンサルティングサービスを、【ご活用サービス】に記載していない場合もあります。

共に Leap (飛躍) してきたクライアント病院

これまで多様な病院のニーズに合った経営改善を実現してきました。コンサルティング初年度から、改善効果を実感していただける病院も数多いです。病院を取り巻く医療環境にあわせたコンサルティングサービスをブラッシュアップしながら提供しつづけた結果、10 年以上、コンサルティング契約を継続していただいている医療機関もあります。

病院の経営カイゼンに役立つ事例を多数掲載！

<https://www.ghc-j.com/case/>





データとITは医療改革を支える両論

世界最先端の医療を提供する米国の医療改革は、IT革命から始まりました。大量の医療ビッグデータをスピーディーに、エレガントに使いこなすには、ITの存在は欠かせません。GHCではIT技術を駆使し、コンサルティング手法を凝縮させた問題解決型「経営分析システム」を提供しています。

高度急性期病院のためのX 4割が導入する経営支援サービス



病院経営の課題に無限のXをもたらす「病院ダッシュボードX(カイ)」は、病院経営の専門コンサルティング会社が開発した、経営改善のポイントが瞬時に分かる、多機能型経営分析サービスです。DPC、地域連携、マーケット、レセプト、手術台帳、財務、重症度、医療・看護必要度といった多様なデータと大量のベンチマークデータをもとに、経営状況を可視化し、経営課題の解決までご支援いたします。

充実の分析機能

- ✓ コンサルティングノウハウを凝縮
- ✓ 院内情報の可視化
- ✓ 独自のベンチマーク分析



※「病床機能」は、地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟向けの分析サービスとER、ICU、HCU向けの分析サービスを提供しています。

使いこなせる環境

- ✓ 充実したサポート体制
- ✓ お客様満足を追求
- ✓ コンサルタントと連携した支援
- ✓ 経営課題解決型ユーザー会を定期的に開催



病院ダッシュボードXでLeap(飛躍)した成功者たち

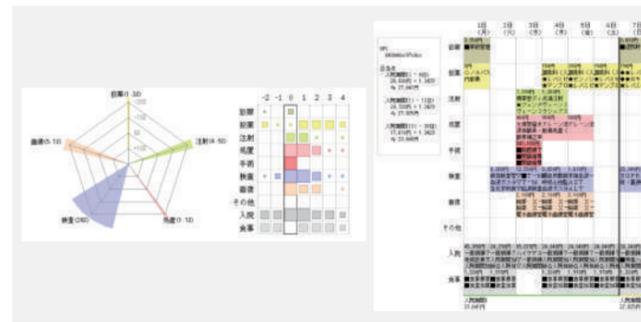
病院名	感想・活用ポイント
1 松坂市民病院	素人でも使いやすい優秀なシステム
2 社会医療法人 生長会 府中病院	DPC II 群へのステップアップに貢献
3 社会福祉法人 恩賜財団 福岡県済生会福岡総合病院	II 群維持に大活躍
4 岩手県立中央病院	無駄のない深い分析へ誘導してくれるツール
5 地方独立行政法人 佐賀県医療センター 好生館	短い分析工数で課題を解決
6 社会医療法人財団 石心会 埼玉石心会病院	目の前の課題を発見し、将来像を模索
7 社会医療法人 製鉄記念室蘭病院	気がついたら DPC 特定病院群
8 社会福祉法人 聖隷福祉事業団 総合病院聖隷浜松病院	「月間手術件数」過去最高を更新!
9 社会医療法人 宏潤会 大同病院	トップが活躍し院内の経営意識が向上

<https://www.ghc-j.com/dashboard/>



DPC分析 ベンチマークシステム

EVE



日本初のベンチマークシステムの思想を受け継ぎ、DPC対象病院の約半数が導入するDPC分析ベンチマークシステム。さまざまな切り口で重要な経営指標を把握できます。

※EVEはMDV社との共同開発商品

<https://www.ghc-j.com/it/>



経営と医療の質を見える化する 月刊レポート

LEAP JOURNAL



【毎月10日配信】

医療現場を知るコンサルタントが、ベンチマーク分析を活用しあらゆる角度から病院経営を分析する、WEB閲覧できる月刊レポートです。「病院ダッシュボードX」および「EVE」ユーザーは、特典として無料で購読いただけます。

<https://leapjournal.ghc-j.com/>



出来高病院向け日本病院会 戦略情報システム

JHAstis2.0 一般社団法人日本病院会



日本病院会が出来高病院向けに提供している、経営分析レポートです。当社ではシステム開発や、レポートの分析サポートを実施し、主要経営指標や加算算定状況が毎月わかるベンチマーク分析や診療報酬改定情報等の役立つ情報を

掲載しています。2020年度からはDPCデータも活用し、「JHAstis2.0」として、増患対策や病床機能別分析等も展開するサービスへ、リニューアルしています。

<https://www.hospital.or.jp/jhastis/>



DPC/PDPS 検索ツール

無料 DPC 検索ソフト
ぽんすけ



DPC/PDPSの新・旧制度を比較することができる分析ツール(無償で誰でもご利用いただけます)。非ネット環境でも利用でき、面倒な診療報酬の計算がポンポンできます。

<https://www.ghc-j.com/it/ponsuke/>



変化の先頭に立て

病院経営の変化の先頭に立つために必要な情報を、GHCは独自のメディアや各種セミナーを通じて提供します。

Gem Med



病院経営に携わるすべての人々に向けて、どこよりも早く、正確で、専門的なニュースをお届けする、医療系ニュースサイト&メールマガジン。



配信日

ニュースサイト：毎営業日
メールマガジン：週刊（営業日のある週初）

編集主幹

鳥海和輝



<https://gemmed.ghc-j.com/>

GHC Seminar

国内外のオピニオンリーダーによる講演や、診療報酬改定の最新情報など、多様な切り口で病院経営に有効なセミナーを開催。



<https://www.ghc-j.com/event/>

書籍案内



「医療崩壊の真実」

著者：アキよしかわ
渡辺さちこ 共著
発行年：2020年
出版社：エムティエヌコーポレーション

日米がん格差
「医療の質」と「コスト」の経済学

著者：アキよしかわ
発行年：2017年
出版社：講談社

日本医療クライシス
「2025年問題」へのカウントダウンが始まった

著者：渡辺さちこ
アキよしかわ 共著
発行年：2015年
出版社：幻冬舎 MC

日本人が知らない
日本医療の真実

著者：アキよしかわ
発行年：2010年
出版社：幻冬舎 MC

「患者思い」の病院が、なぜ
つぶれるのか？

著者：渡辺さちこ
発行年：2009年
出版社：幻冬舎 MC



トップランナーと創造する医療の未来

<https://www.ghc-j.com/science/>



GHCは国内外のトップランナーとの学術・研究活動や、社会貢献活動、最新の研究を反映させた新規事業構築などにも注力しています。

国内医療機関の事業や研究活動をサポートします。

＜一例＞

- 全国のがん診療連携拠点病院が集う「CQI研究会（Cancer Quality Initiative）」
- 回復期医療の研究会「回復期の医療と経営の質向上を考える会」
- 自治体病院によるベンチマーク勉強会（ToCoM^(注)：東海地区、DoCoM^(注)：北海道地区、せやCoM^(注)：大阪地区）
※文中の「CoM」は「コンソーシアム」を表します。

国内



海外





日本初の病院ベンチマーク分析から始まり、医療制度の先を走り続けた「挑戦と進化」の軌跡

患者にとって価値の高い医療を提供するために、医療現場は何をすべきか——
創立当初からのこの追求が、国の先行く取り組みや、診療報酬上での評価へとつながりました。



GHCの取り組みと関連が深い医療制度は同色の矢印のアイコンがついています。

GHCの軌跡

1995

アキよしかわが米国グローバルヘルスコンサルティング (米国 GHC) 設立

2004

- 03 March
株式会社グローバルヘルスコンサルティング・ジャパン (GHC-J) 設立

GLOBAL HEALTH CONSULTING

- 05 May
日本初のベンチマークシステム「DAVE」リリース

- 10 October
全国社会保険協会連合会との調査研究事業スタート

2006

- 08 August
DPC ベンチマーク分析システム「EVE」リリース (MDV 社との共同開発)

EVE

2007

- 04 April
DPC コスト分析システム「コストマトリックス」リリース (MDV 社との共同開発)

Cost Matrix

- 12 December
CQI 研究会 (Cancer Quality Initiative) 第 1 回会合開催



2008

- 06 June
ToCoM (東海地区自治体コンソーシアム) 第 1 回会合開催

2009

- 07 July
「看護必要度に関する研究」開始 (滋賀医科大学医学部附属病院 看護部と共同研究)

2010

- 01 January
DoCoM (北海道地区自治体病院コンソーシアム) 第 1 回会合開催

2011

- 04 April
次世代型経営支援サービス「病院ダッシュボード」をリリース



2012

- 05 May
米国スタンフォード大学と共同研究



2013

- 02 February
米国メイヨークリニックと共同研究



- 12 December
内科系学会社会保険連合の「内科系技術についての診療報酬評価に関する提案 Ver.1」に関わる分析協力

2014

- 12 December
せや CoM (大阪周辺自治体病院コンソーシアム) 第 1 回会合開催

2015

- 02 February
クイーンズメディカルセンター研修



2016

- 03 March
日本病院会と業務提携し 出来高病院向け経営支援レポート「JHAsis」開発



2017

- 06 June
「回復期の医療と経営の質向上を考える会」第 1 回会合開催

- 12 December
「病院ダッシュボード X」リリース



COVID-19

2020年6月から9月まで
新型コロナウイルス感染症が病院経営に及ぼした影響に関する分析を医療機関に無償で提供しました。



2018

- 04 April
「病院ダッシュボード X」がリニューアル (「地域連携分析」リリース)

2020

- 06 June
新型コロナ分析レポートを無償提供
- 12 December
『医療崩壊の真実』発刊



2019

- 08 August
「病院ダッシュボード X」がリニューアル (ソリューション別提供の開始)

2021

- 06 June
「病院ダッシュボード X」がリニューアル (「症例 Scope」リリース)

2000

2010

2015

2020

1998

国立病院等 10 病院で 1 入院当たりの急性期入院医療包括払い制度が試行を地 (日本版 DRG)

2003

特定機能病院を対象に、現行の DPC/PDPS が導入され、その後急性期病院に拡大

2008

「一般病棟用の重症度・看護必要度に係る評価表」を用いた看護必要度の評価が 7 対 1 入院基本料の算定要件になる

2009

DPC/PDPS 対象病院数が 1000 病院 (1287 病院) を超える

2010

「機能評価係数 II」が導入される

2012

医療機関群や点数設定方式 D (隠れ DRG) が導入される

2016

「重症度、医療看護必要度」の H ファイルの提出がデータ提出加算の算定要件になる

「特定内科診療 (2014 年度版)」で定められた技術の実施が、医療機関群 II 群の実績要件になる

GHCの事業と
関連が深い
医療制度

Mission

医療と経営の質向上に全知を傾け、
医療の発展に寄与する

病院のよきパートナーとして、誠実に、最大の価値を提供します

新型コロナウイルス感染拡大で露わになったのは日本の脆弱な医療提供体制。さらに目前に迫る2025年問題や人口減少のなか、求められるのは病院と医療提供者の集約化で、病院の再編統合は待たなしです。

病院も選ばれる時代になっています。選ばれるために必要な要素は、質の高い医療を提供するということ。そして病院の経営が健全なことです。

No Margin, No Mission—利益なくして、果たせる使命なし。

GHCは病院経営者の良きパートナーとして、日本の医療の未来に向けて目標を一つにし、「医療の質」と「経営の質」向上に資するビッグデータの解析を活かし、病院のため、ひいては、その先に存在する患者と地域住民のために、最大の価値を提供することをめざしております。

株式会社グローバルヘルスコンサルティング・ジャパン
代表取締役社長 渡辺 幸子



慶應義塾大学経済学部卒、米国ミシガン大学で医療経営学、応用経済学の2つの修士号を取得。帰国後、2003年より米国グローバルヘルスコンサルティングのパートナーに就任。2004年3月グローバルヘルスコンサルティング・ジャパンを設立。著書に『“患者思い”の病院が、なぜつぶれるのか？』（幻冬舎MC）、『日本医療クライシス「2025年問題」へのカウントダウンが始まった』（幻冬舎MC）、『医療崩壊の真実』（エムディエヌコーポレーション）。

Vision

常に革新的なサービスを開発し、
国民と地域を守る「ビジョナリー・ホスピタル」の
進化・発展（Leap）に貢献する

病院淘汰の時代、健全な競争が医療の質を高めます

遅々として進まなかった日本の病院再編統合。「コロナ危機」でその必要性が国民の目にも明らかとなり、不幸中の幸いとして、再編統合が早まる可能性が高まりました。

病院再編統合時代では、健全な切磋琢磨によって効率化を進め、医療の質を高めた病院のみが競争に勝ち残ることができます。

私はこうした「競争」こそが医療の質を高めると考えています。また病院は、そうした努力と結果を消費者、つまり患者と患者の家族に対して、積極的に発信していくことが必要です。

私は病院経営のコンサルティングと情報発信を通して、誰もが日本全国どこでも質の高い医療を選べるような世の中を実現したいと考えています。

米国グローバルヘルスコンサルティング
会長 アキよしかわ



がんサイバーの国際医療経済学者、データサイエンティスト。10代で単身渡米し、医療経済学を学んだ後、カリフォルニア大学バークレー校とスタンフォード大学で教鞭を執り、スタンフォード大学で医療政策部を設立する。米国議会技術評価局（U.S. Office of Technology Assessment）などのアドバイザーを務め、欧米、アジア地域で数多くの病院の経営分析をした後、日本の医療界に「ベンチマーク分析」を広めたことで知られる。近著に『日米がん格差「医療の質」と「コストの経済学」』（講談社）、『医療崩壊の真実』（エムディエヌコーポレーション）。



GLOBAL HEALTH CONSULTING

会社概要

会社名	株式会社グローバルヘルスコンサルティング・ジャパン
代表取締役社長	渡辺幸子
会長	アキよしかわ
本店所在地	〒160-0022 東京都新宿区新宿六丁目 27 - 30 新宿イーストサイドスクエア 5F
TEL	03-6380-2401(代表)
FAX	03-6380-2402
URL	https://www.ghc-j.com/
MAIL	info@ghc-j.com



website

